枚方市立第四中学校　学習研究チーム

# 四中メソッド

## ～令和６年度 ver.　～

四中メソッドの目的

　四中での授業の「標準的なスタイル」を提示し、生徒にとって安心感のある学びを提供する基盤をととのえる。

## 令和6年度の重点テーマ

## 自己を調整する力の育成

　学校経営方針「学びあい、つながりあい、幸せな人生に向けて挑戦し続ける生徒の育成」の実現に向け、令和6年度の学力向上のテーマを【自己を調整する力の育成】とし、学校全体で研究に取り組んでいきたいと思います。

　自己を調整するというのは、まず自分自身と向きあうこと、そして自分を高めようとすることです。もちろん、その過程では失敗することもあります。そんなときに「粘り強く取り組める力」を育もうと昨年度はテーマにして取り組んできました。

　今年度は、この自己を調整する力を育成するための具体的方策として、

①生徒が言語能力を自覚化すること　　・・・教科的な言語化とは？
②生徒が探究的な学びを実践すること　・・・自ら探究したくなる課題とは？
③生徒がまわりとつながること　　・・・仲間と、教材と、地域とつながる機会

　の3つに重点を置き、学力向上研究部を中心に、教科会を活性化させて研究及び授業実践を行っていきたいと思います。先生方が同じ方向をむいて1年間継続した取り組みができるようご協力よろしくお願いします。

## ≪重点事項≫ユニバーサルデザインの授業づくり

～すべての生徒が、参加しやすい授業づくり～

① 教室・学習環境を整える

- 整理整頓、すっきりと（使用しない教材や授業に関係ないものを置かない）
- 目から・耳から入る刺激を減らす（下記のようなテニスボールの使用）
- プリントは、わかりやすい字体を使用する例）UDフォント、ゴシック
- レイアウトに気を配る例）行間の幅、板書との対応関係…
- 板書で使う色は2・3色まで。赤・緑・青などは見にくいのでさける。

② 見通しを持てるようにする（授業構成の工夫）

目 標　まとめ　ふり返り

- 生徒全員に本時の目標を明確にし、全員でその目標が共有できるように示す
  （各教室及び特別教室にマグネットを貼り付けています。）
  ※ 目標は、必ずしも授業のはじめに示さなければならないわけではない。
  ※ めあての語尾は、「～できる。」や「～わかる。」にする。
- 1時間の授業の流れがわかるように、黒板に示す
- なるべく毎回の授業の流れをルーティーン化する

今日の内容
・前回の復習 …5 分
・ペアワーク…10 分
・グループワーク…20 分
・発表…10 分
・まとめ…5 分

③ 指示・説明・発問を工夫する　※ 目標は生徒に提示しましょう

- いつでも見て確認できるようにする。
- 抽象語を少なくし、具体的にわかりやすく伝える
- 一度に指示することは一つだけにする。一つの文章を、短めにする
- 肯定的な言い方をする ×「～しません。」 ○「…しましょう。」

④ 複数の教材や、やり方を用意する

- 口頭で説明するだけでなく、同時に視覚的にも示す
- いろんな方法を提示し、生徒に選ばせる（例：板書のiPadでの撮影）
- 授業内で、生徒に応じた目標・到達地点を認める

⑤ 認め合う学習集団づくりをする

- クラスメイトの意見を尊重する

教室前はすっきりとさせる。ひらひら・きらきらしたものは貼らない。

黒板横は、なるべくすっきりと！掲示する場合は最小限に、たてよこをそろえる

学年目標・学級目標などは前に掲示

机・イスの脚にテニスボールをはめ消音効果を図る。集中力もアップ！

## 【方策1】言語活動の充実

言語能力を高めていくためには、「多様な言語活用の機会」が大切になります。そもそも、教科的な言語が各教科にはあります。この言語は、会話だけでなく、プレゼンテーションの能力、たくさんの資料から目的に合わせて情報を抜きとる力など、たくさんの活動を意図的に組み入れていくことで獲得し、活用できるようになっていきます。まずは各教科で教科的な言語とは何かを考えてみてください。そして、その力をどのようにして獲得させ、活用させていく（自覚化させる）のか、教科会で話し合い、イメージを共有させてください。また、これまで四中で取り組んできた活動例やチェックリストを下に記載していますので、それも参考に授業の組み立てをお願いします。

★言語活動の例★（文部科学省より）

・帰納・類推，演繹などの推論を用いて，説明し伝え合う活動を行う。
・日常生活の中で気付いた問題について，自分の意見をまとめ、説得力ある発表をする。
・社会生活の中から話題を決め，それぞれの視点や考えを明らかにし，資料などを活用して話し合う。
・グループで協同的に問題を解決するため，学習の見通しを立てたり，調査や観察等の結果を分析し解釈したりする話し合いを行う。
・新聞，読み物，統計その他の資料を基に，根拠に基づいて考えをまとめ報告書を作成する。
・実験や観察の結果，調査結果などを整理し重点化し，相手に分かりやすく，ポスターやプレゼンテーション資料などに表現する。
・テーマを決めて複数の本や資料などを読み，内容を比較したり，批判的にとらえたりするなど，知識や考えを深める。

他にも…

・本時の**まとめ**や本時及び前時の**振り返り**を行い、児童・生徒が自分の言葉で説明できるようにすることも一つの言語化につながります。

※「振り返り」の例
①自分で何が分かったか、分からないかを書く。（再確認）
②自分で何ができるようになったのか、できていないかを書く。（達成感）
③もっと知りたいこと、調べたいこと、疑問思ったことを書く。（見通し）
④家庭学習や次時への学習につなげる。（つながり）

※ 逆向き設計の授業計画を意識する。

≪言語能力チェックリストの活用について≫

四中では、生徒本人にどのような言語能力を授業の場面で発揮できたのかを意識化（自覚化）させるため、チェックリストを活用しています。つぎの項目を参考に、各教科で工夫して活用してください。なお、チェックリストは回収・点検等の必要はなく、実施方法・頻度等も教科で検討してください。

〇言語能力チェックリストの項目

議論・話し合い

・話を聞きながら大事だと思うところをメモする事ができた
・相手の考えに質問できた
・相手の考えに、反論・賛同・補足できた
・自分と相手の考えの同じところ、違うところを見つける事ができた
・互いの考えの良い点を取り入れ、より良い案を考える事ができた

解釈・分析・整理

・共通点に注目して情報を分類する事ができた
・目的に応じて文章（情報）や発信者の意見を要約することができた
・テキストから、発信者が一番言いたいこと（主張・要旨）を捉える事ができた
・物事を様々な観点で比較する事ができた
・物事を多面的に捉える事ができた

説明・表現・発信

・自分の考えを相手に根拠や理由を示して説明できた
・相手がわかりやすいように順序立てて説明できた
・テーマや問いを立てて説明できた
・目的や相手に合わせて簡潔に説明できた
・目的や相手に合わせて書き方や話し方を使い分ける事ができた
・図やグラフ、写真・動画など、資料や機器を使って相手にわかるように表現できた
・身につけた表現技法を使って表現できた

≪授業におけるピクトグラムの活用について≫

生徒がどのような活動を行おうとしているのかを視覚化・意識化するために、各教室に以下のようなピクトグラムを配備しています。授業での積極的な活用をお願いします。

※ 2つ以上のピクトグラムを授業の途中で交換する展開もあり得ます。

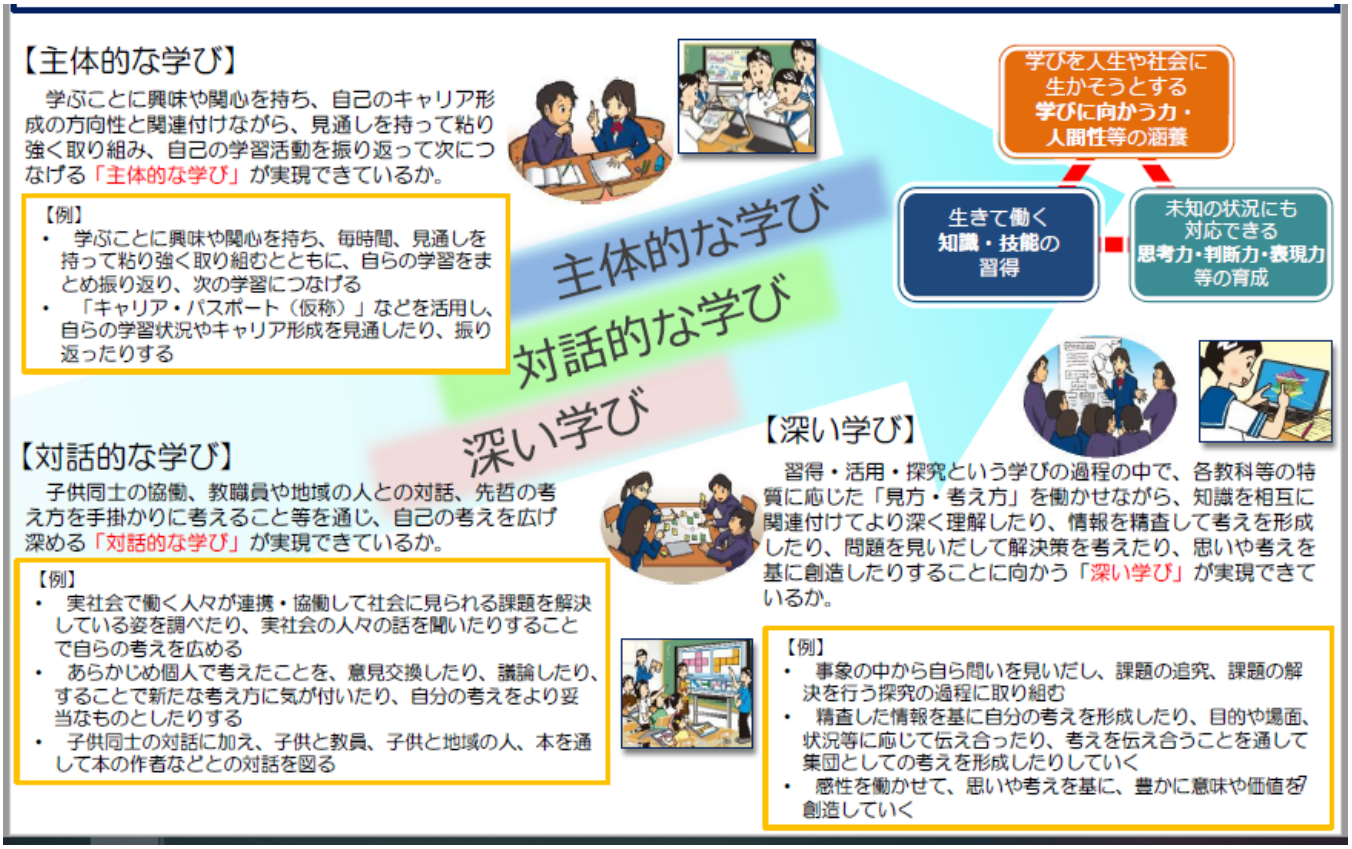
## 方策2「主体的・対話的で深い学び」の創造

※ **発問や課題の工夫**をして、根拠を示しながら説明できる力をつける。
教科書の分析、活用の徹底を行う。発問はできるだけ明確にする。

主体的な学びの視点から　：学習課題と児童生徒が出会う場を演出する。
対話的な学びの視点から　：自分ひとりでは解決が難しい発問を設定する。
深い学びの視点から　　：発問から解決するまでの過程の大切さを確認する。

☆主要発問・課題：（中心発問）その授業の中で最も中心となる発問。
☆揺さぶり発問　：本当にそれでいいのか？迷わせる。
根拠は何かとじっくり考えさせる発問。
☆補 助 発 問　：中心発問及び揺さぶり発問を助ける発問。
例）こうすればどうなるのかな？
Ａの時はどうかな？等ヒントとなるような発問。

〇まずは一人でじっくり考える時間をとる。
〇グループやペアで意見を共有する（ホワイトボードやタブレットの利用）




（文部科学省より）

※ 個別最適な学びについても、各教科でどんな導入の仕方、みとり方があるか考えてみてください。

## 【方策3】ICT機器と図書館の効果的な活用

★ICT の活用については、必要なときに活用することが原則！

《ICT 機器一覧》

○ 職員室　管理
- ・外部系コンピュータ
- ・PC 用スピーカー
- ・モバイルバッテリー
- ・書画カメラ（放送室）
- ・Apple TV

※ 貸出しノートに記入し、使用してください。

○ 教室管理
- ・プロジェクター
- ・モバイルスクリーン
- ・接続用ケーブル類

※ 使うことありきではなく、どのように使えば生徒にとって効果的であるか、教員にとって効率的であるかを研究し、共有できたらと思います。

★図書館を効果的に活用し、多くの教材に出会う機会を

探求的な学習を実施するために、生徒が自ら本を活用し、課題を設定し、情報を集め、整理・分析し、まとめる力をつける。（学び方のプロセスを知り、学び方のスキルを身につける。思考力、判断力、分析力、表現力の育成）

教科としてどのような活用方法があるのか研究・共有していきましょう（可能性を広げていく）。

① 学校司書の授業支援（レファレンス）を利用するなかで、自らの力で必要な情報を判断し、調べる力を育成する。
② 生徒自身の力で、目的に応じた本や文章を読み、知識を深めるだけではなく、情報を集めるための方法を見つける。
③ 本だけではなく、タブレット利用を併用することで、信頼できるサイトとは何かを考え、調べる。（本、インターネットそれぞれの利点・課題を考える）
④ レファレンスを利用し、出典や著作権等正しい調べ方・載せ方を学ぶ。

※図書館の利用も、職員室分電盤扉にある予約簿に記入が必要です。

チャンプ本

教科で活用する内容がわかれば、司書の方がそれに合わせた特集を準備してくださることもあります。